

[公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

<事業計画>

教育改善のために ICT を利活用する FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、優れた授業研究の選考・表彰を通じて大学教育の質向上を図るため、文部科学省の後援を受けて、国立・公立・私立の大学・短期大学の教員を対象に、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を実施する。

<事業の実施結果>

「ICT 利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置し、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に委員会の活動状況を報告する。

ICT 利用教育改善発表会運営委員会

2020年(令和2年)5月23日、8月1日、2021年(令和3年)1月23日に平均8名が出席して3回開催し、ICT 利用による教育改善研究発表会における発表募集要項の作成、1次選考と2次選考の運営、Web サイトによる公表を行った。

(1) 発表者の募集

前年度の2月29日の運営委員会において発表募集要項を見直し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面方式の開催からオンライン方式の開催に変更するとともに、アルカディア市ヶ谷(私学会館)を配信会場として、以下の点を中心に変更した。

一つは、発表募集要項のタイトルを「教育の質的転換を目指す ICT 利用」から「教育の質向上を目指す ICT 利用」に改めた。二つは、ICT を利用している教育改善の取組みに、「学部等連係課程授業」と「地域社会・産業界との連携授業」を加えた。なお、「学部等連係課程授業」の定義は、脚注に「横断的な分野に係る教育課程を複数学部で実施する教育課程に基づく授業」と記載した。三つは、発表会論文資料の資料代について、発表者は無償としてきたが、有償の参加者とのバランスを配慮して、資料代(1,000 円)を徴収することにした。

(2) 発表者の選考

① 5月23日の運営委員会で38件の応募について書類選考を行い、38件すべての発表を確定したが、後日1件の辞退があり、最終的な発表は37件となった。

② 1次選考は、8月25日(金)にアルカディア市ヶ谷の2会場において実施した。発表は、発表者が会場に来場して発表する方法と、発表者が事前に発表映像を提出しておき会場から配信する二通りの方法で実施した。会場に来場した発表者は13名、来場できない発表者は24名であった。どちらの参加者も発表時間は13分と質疑5分とし、オンラインで行った。その上で、選考規程にもとづき、選考委員が分担して発表内容及び発表会論文を精査し、以下の基準で1次選考を行った。

※ 教育上の問題解決を図るために、ICT 利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること

※ ICT を利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること

※ 客観的な評価方法により、教育改善の効果が示されていること

その結果、2次選考の対象として8件を選考した。

発表内容の詳細は、巻末の2020年度事業報告の附属明細書【2-5】を参照されたい。

- ③ 2次選考は、9月26日(土)に実施し、選考委員全員で1次選考の発表を収録したビデオ及び発表会論文を精査し、授賞対象を選考した結果、以下の通り、奨励賞1件を決定した。

2020年度表彰者

【奨励賞】

「大規模授業における学生の主体性を引き出すコミュニケーションシステムの構築と評価」
長岡造形大学 福本 壘 氏

[授賞理由]

本研究は、教員の一方的な知識の伝達・注入による大規模授業で自ら学び考える主体性の不足、学修意欲や教室外学修時間の不足に対処するため、スマートフォンなどで教員と学生間、学生同士間の「意見集約・可視化・共有」をフィードバックするコミュニケーションの自動化システムを構築することで、知的成長の機会を創出する取組みである。

本システムでは学生のフィードバックシートを形態素解析し、共起ネットワーク図を自動生成することができ、これにより受講者の自己効力感の向上、最終課題の質の高い作品の増加、授業後の社会問題への行動変容などの効果が見られるなど優れている。しかし、質の低い作品の微増もあり、本システムとの関係性の分析、授業後の主体的な実践活動を促進するコミュニケーションパターンの解明など、今後の課題も見受けられる。

(3) 選考結果の表彰

表彰は、11月30日の第29回臨時総会で発表者を招待し、文部科学省専門教育課の吉田課長臨席の下、本協会向殿会長から、奨励賞の楯と副賞(3万円)を授与した。

(4) 授賞論文の公表

本協会の Web サイトで公表した。



左から文部科学省の吉田課長、
受賞者の長岡造形大学の福本氏、本協会向殿会長